

# 令和元年度の農業を振り返る

稻作

令和元年産水稻の作況指数は「104」のやや良となりました。春先の高温・水不足・登熟期での高温により1等米比率は83・3%となりました。各生育ステージでの生育状況を振り返りながら、次年度への取り組みを紹介します。

## 播種・育苗期

本年の播種作業の最盛期は、4月上旬から中旬となり平年並みでしたが、浸種時期の低温の影響により一部で不揃いが見られました。播種後は、高温多照とハウス温度管理の不備により、高温障害が管内でも約2万枚発生しました。そのため、一部の圃場ではまさ直しがみられましたが、「苗立ち枯れ病」や「ばか苗病」、その他病害は少ない状況がありました。



田植え期間は、連日の好天により活着は良好でしたが、5月上旬に降雨量が少なく、水不足によって代掻きや田植えができるない圃場も見受けられました。田植え作業の最盛期は平年より1日遅い5月18日頃となりました。

好天のために雑草の動きも早く、代掻きから除草剤散布までの期間が長い圃場を中心に、雑草が多く残る水田があつた一方で、初期生育は一

## 田植え・生育初期

田植え期間は、連日の好天により活着は良好でしたが、5月上旬に降雨量が少なく、水不足によって代掻きや田植えができるない圃場も見受けられました。田植え作業の最盛期は平年より1日遅い5月18日頃となりました。

好天のために雑草の動きも早く、代掻きから除草剤散布までの期間が長い圃場を中心には、雑草が多く残る水田があつた一方で、初期生育は一

## 生育中期・出穂期

春先の水不足や好天によるカナ発生により、有効茎決定期にかけて茎数を増やせませんでした。

その後は降水量も平年並みとなり、高温基調で回復したようにも見えましたが、最高分げつ期の茎数は平年を下回り、葉色は濃い状況がありました。幼穂形成期から減数分裂期にかけては茎数が落ちず、特に晚生品種では逆に増える傾向となりました。



出穂は平年より1～3日早まり、その後高温が続き8月後半から一気に稻体が消耗しました。一方、登熟期調査では穗数が多い傾向で、これは孫分けが多く残ったためと思われます。カメムシ類の発生については、すくい取り調査では平年より捕獲数が多く、農道および畦畔の草刈りや航空防除除外地での個人防除の徹底を呼び掛けたものの、一部地域で被害が発生しました。